

(3) 防災対策と環境の問題

海岸整備等による生態系への影響

1. 海岸構造物による生息場所の消失

ウミガメ・カブトガニの生息地域

ウミガメやカブトガニが生息している海岸は以下のように分布している。

ウミガメ・カブトガニの生息地域

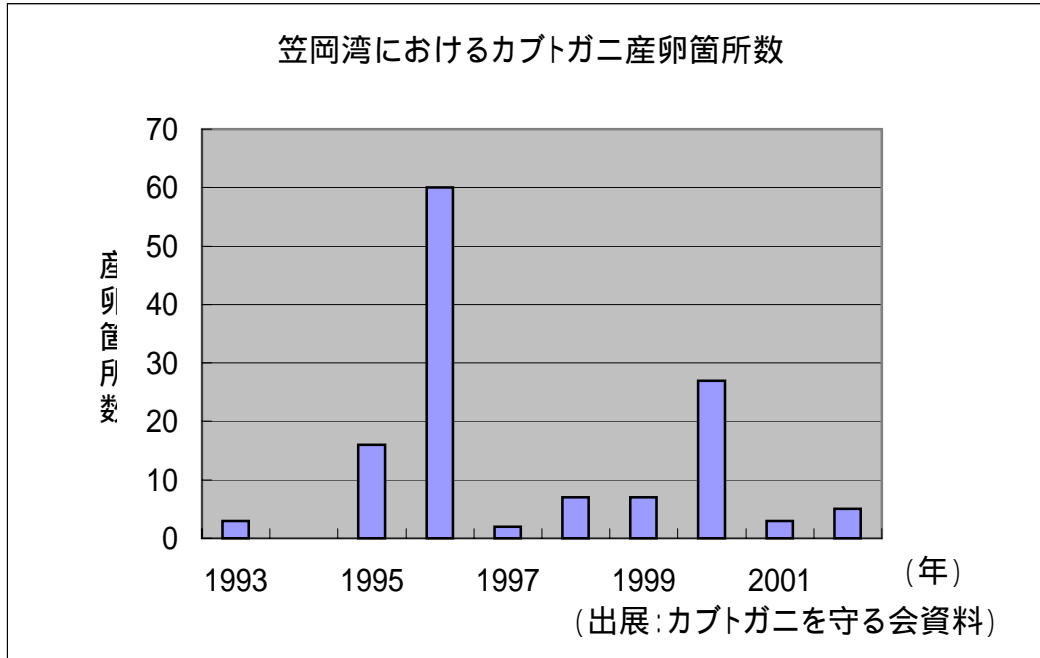


(国土交通省資料)

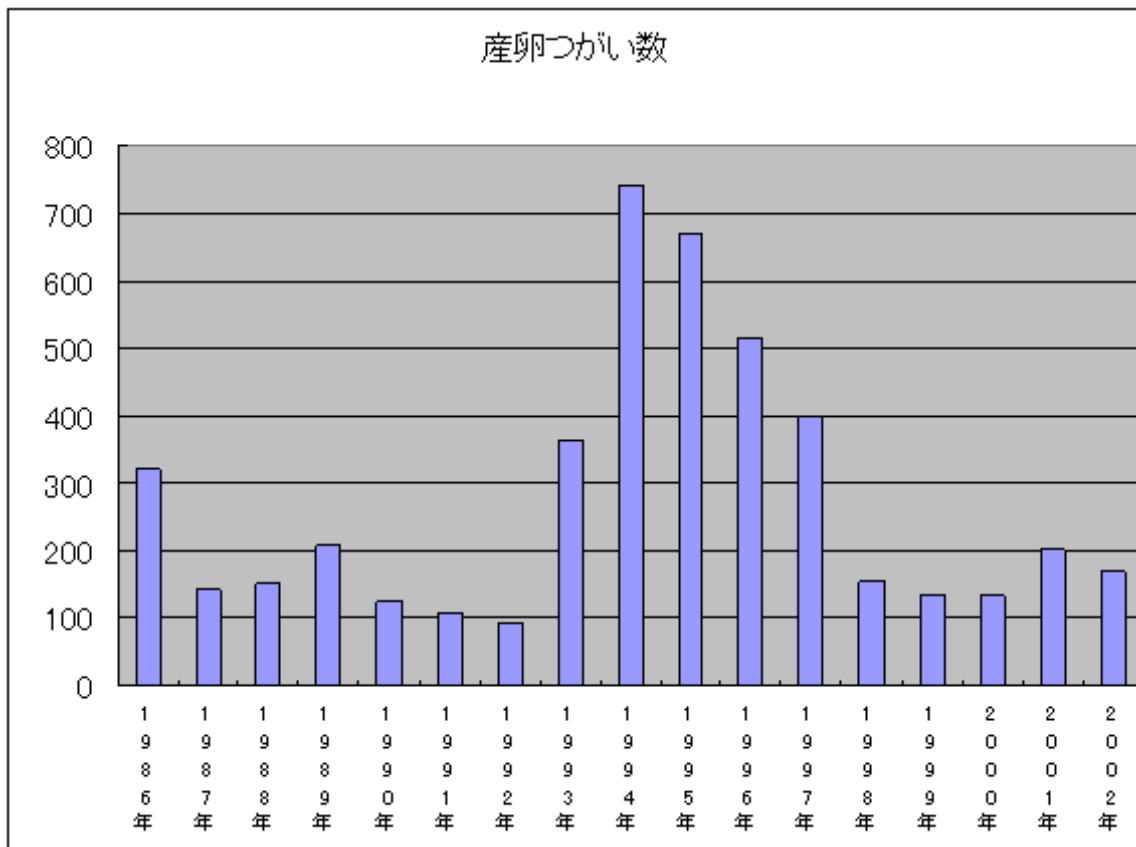
カブトガニの産卵箇所等について

・ 既往のデータでは、調査年により変動はあるものの、海岸環境の変化により、産卵箇所等の減少が懸念されている。

岡山県笠岡湾におけるカブトガニの産卵

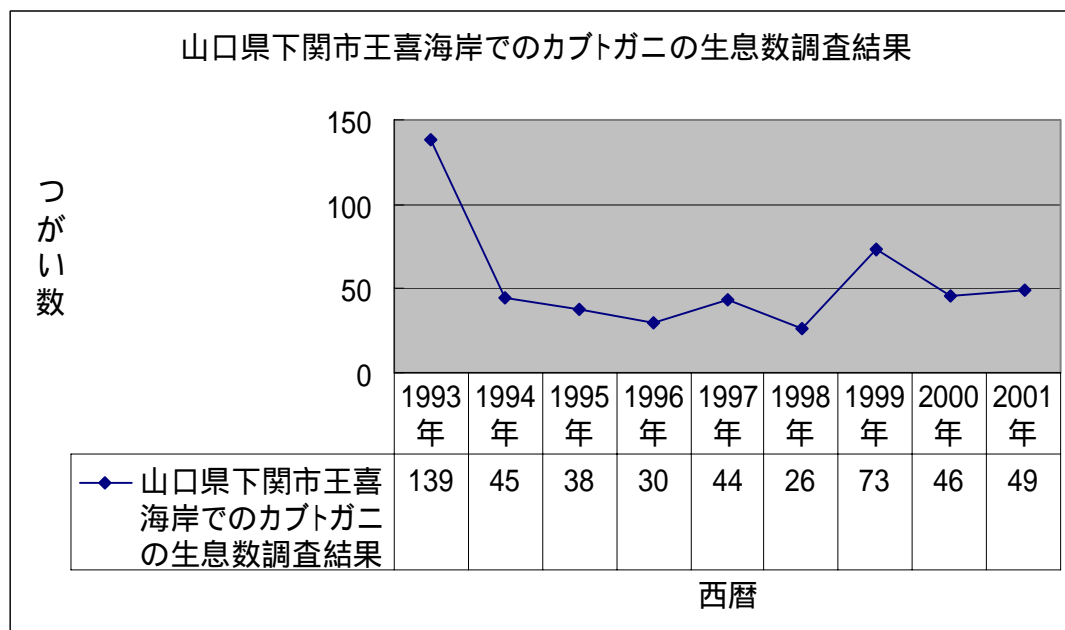


佐賀県伊万里湾におけるカブトガニの産卵



(出典:酒見良司、伊万里高校生物部)

山口県下関市王喜海岸でのカブトガニの生息調査



(出典 山口カブトガニ研究懇話会)

ウミガメの産卵箇所について

・環境省のウミガメ生息調査結果(平成13年(2001)8月30日発表)によれば、調査年度(平成10年度もしくは平成11年度)を含む過去10年間以上連続してウミガメの上陸頭数が確認されていた砂浜120箇所について、その上陸状況を見たところ、47箇所の砂浜で上陸頭数に減少傾向が見られている。なお、この47箇所のうち、数カ所については環境条件の変化が見られたが、全ての箇所について環境条件の改変が見られたわけではなく、上陸頭数に減少傾向が見られた原因は不明となっている。

2. 生息場所の保全に向けた取組の例

国土交通省エコ・コースト事業 ウミガメ・カブトガニ指定地区

平成8年度指定

- <伊勢湾西南海岸（三重県松坂市、伊勢市、明和町）>
アカウミガメが産卵に訪れる海岸として知られているが、近年砂浜の減少が顕著であるため、養浜等の実施により砂浜の拡大を図る。
- <紀宝海岸（三重県紀宝町）>
アカウミガメが産卵に訪れる海岸であるが、海岸侵食により砂浜が減少しているため、人工リーフの整備及び養浜の実施により砂浜の創出を図る。
- <東播海岸（兵庫県明石市）>
当海岸での砂浜では、アカウミガメの産卵が確認されており、今後養浜等を実施することにより、ウミガメの産卵区域の拡大を図る。
- <羽根坂本海岸（高知県室戸市）>
アカウミガメが産卵に訪れる海岸であるが、海岸侵食により砂浜が減少しているため、人工リーフの整備により砂浜の創出を図る。
- <長崎鼻海岸（鹿児島県山川町）>
多くのウミガメが産卵に訪れる風光明媚な海岸であるが、台風等の波浪により砂浜が減少しているため、人工リーフの整備により砂浜の保全・創出を図る。
- <松ヶ浦海岸（鹿児島県知覧町）>
ウミガメが産卵に訪れる海岸であるが、台風等により砂浜が減少しているため、人工リーフの整備と養浜により砂浜の保全・創出を図る。

エココースト事業の拡充

従来のエコ・コースト事業を拡充し、計画策定時におけるNPOなど住民団体等からの意見聴取パイロット事業工区における住民団体等の参画によるモニタリングの実施及びその結果等を踏まえ、より適切な施設の整備を行う「住民参加型エコ・コースト事業」制度を平成14年度に創設。